

特色あるキャリア教育づくりをめざして

キャリア教育は、学校の全教育活動を通して取り組むことで、そのねらいを達成することができます。そこで、学校で取り組まれているキャリア教育を、新たな視点から見直してみませんか。

I キャリア教育の共通理解に取り組みましょう。

教育研修センターが実施したキャリア教育に関するアンケートをみると、校内研修に取り組むことがキャリア教育の視点を取り入れた授業の実施につながっているようです。校内研修を計画的、弾力的に実施することが大切です。

質問項目	小学校	中学校	高等学校	特別支援学校
キャリア教育に関する校内研修を実施していますか。	76.8%	78.2%	64.1%	92.3%
キャリア教育の視点を取り入れた授業を、学校全体で実施していますか。	68.0%	77.4%	66.7%	92.3%

(平成25年度「キャリア教育に関するアンケート」より)

(例) 宮崎海洋高等学校における校内研修の取組

事例1 ワークショップを取り入れた研修



研修にワークショップを取り入れることで、参加される教職員のキャリア教育の取組に対する意識を向上させることができます。

事例2 外部講師を活用した研修



外部講師を活用することで、より専門的な知識を身に付けることができます。
※ 教育研修センターでは、校内研修支援として講師を派遣しています。



ねらいを明確にして、研修の充実を図る工夫等について検討することが大事です！

目標すべき児童生徒の姿など共通の目標を設定した上で、教職員が関わりやすい環境をつくるとともに、1年間の取組を振り返り、共通理解を図る機会となるように、校内研修を設定する必要があります。

II キャリア教育を推進するための体制を整備しましょう。

キャリア教育の目標を達成するためには、各学校において、全教職員が協働で取り組めるように、各学校の実態に応じた指導体制を整える必要があります。

1 児童生徒に対する指導体制の整備

担当する学級や学年だけでなく、他の学級や学年の実施状況を十分把握しておくために、それぞれの実践を共有する必要があります。

(具体例)

- 小学校から中学校までの9年間を視野に入れたキャリア教育の学習や活動の成果をファーリングした児童生徒のポートフォリオを掲示する。
- 体験活動の様子などの写真を掲示したり、キャリア教育コーナーを設置し、関連する作品や関連書籍を置いたりする。

キャリア教育に関する授業研究、授業公開も必要です。全教職員で実践状況を共有し合い、共同性を高めていきます。

2 実践を支える運営体制の整備

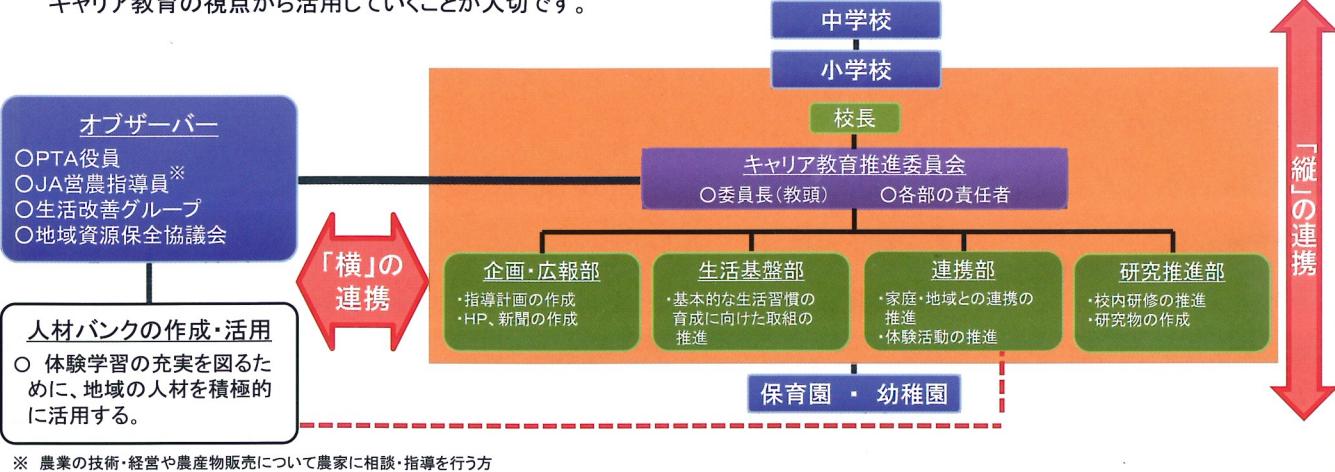
キャリア教育の計画や運営、改善などを進めるための組織づくりが必要です。組織の編成や役割などを弾力的にし、実効性の高いものにします。

(例)「キャリア教育推進委員会を中心とした運営体制の組織図



(例) 工夫を凝らした運営体制～徳島県のある小学校におけるキャリア教育を推進するための組織～

この小学校では、これまでに実践してきた食育をキャリア教育の視点から見直し、取組を行っています。既存の組織や実践をキャリア教育の視点から活用していくことが大切です。



※ 農業の技術・経営や農産物販売について農家に相談・指導を行う方

III PDCAサイクルを基盤にキャリア教育に取り組みましょう。

P(計画) 学校の特色を生かしたキャリア教育を!

ステップ1 実態をつかむ

- 児童生徒、学校、地域の実態を把握します。

児童生徒の実態を把握するには…

定性的な把握…面談や面接、観察等から児童生徒の実態をつかんでいきます。

定量的な把握…アンケートや自己評価、学校評価等から児童生徒の実態をつかんでいきます。

[実態把握の例]

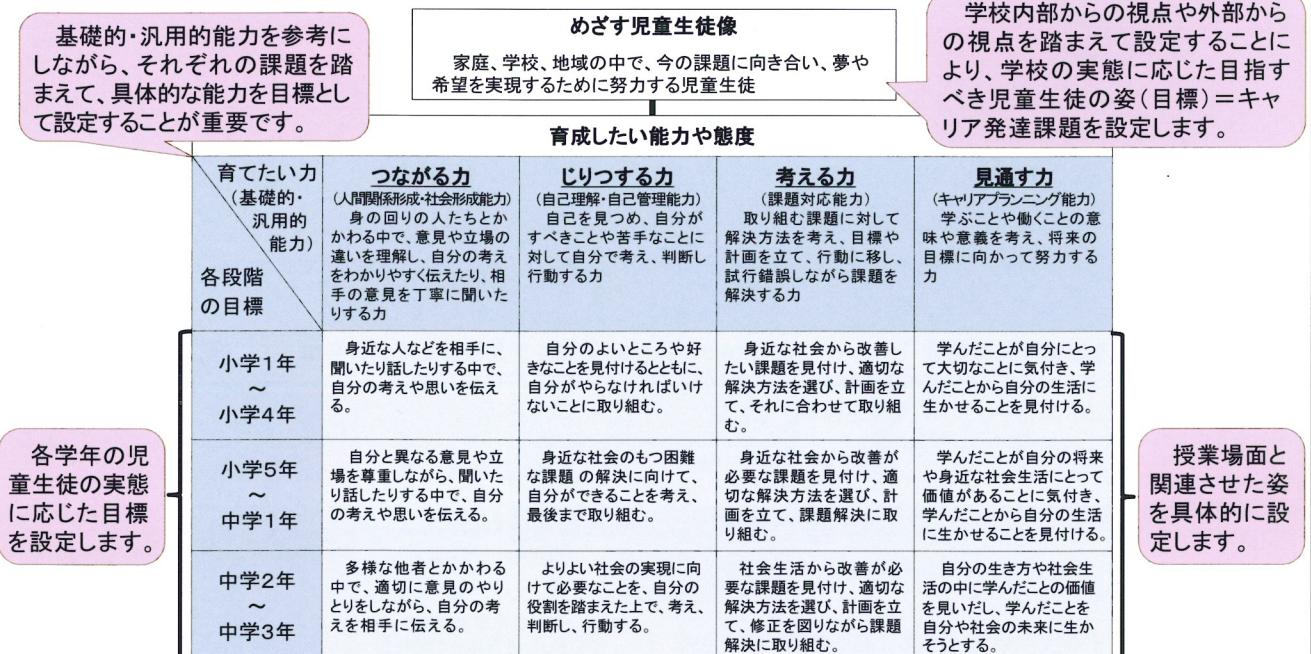
児童生徒の実態を把握する(定量的な把握)	
① 友だちや家の人の意見を聞く時、その人の考え方や気持ちを受け止めようとしていますか。	4 3 2 1
② 相手が理解しやすいように工夫しながら自分の考え方や気持ちを伝えようとしていますか。	4 3 2 1

各学校で育てたい能力や態度の設定

ステップ2 目標、指導計画を立てる

- キャリア教育を通して育成すべき能力や態度などをどのような内容や方法によって身に付けさせようとするのかを系統的に計画し、具体的に可視化していきます。

(例) 小中9年間でとらえた目標の設定



※ 年間指導計画の作成にあたっては、各教科、道徳、総合的な学習の時間、特別活動などにおいて、日常生活の中から課題を発見し問題解決的な学習を取り入れるなど、意図的なつながりをもたせることが大切です。

学習につながりをもたせる視点

「学習目的とのつながり」 「過去の学習や教科間のつながり」
「日常生活とのつながり」 「将来の役割とのつながり」

A(改善) 新たなるキャリア教育の取組に向けて!

- PDCAサイクルを生かして、C(評価)の結果から導き出された成果と課題を踏まえ、次年度に向けた改善を行います。改善の具体的な視点としては、次の3つが考えられます。

1 指導に生かす

○ 指導計画の修正

- ・育成する能力の点検、見直し
- ・計画の体系的・系統的な整理、見直し
- ・取組の実施時期や内容、方法の検討

○ 個別支援・指導の工夫

- ・評価に基づいた個への指導の在り方

2 組織に生かす

○ 組織編成の見直し

- ・課題解決を図る組織への改編
- ・生徒会などの生徒による組織との連携
- 校内研修の充実
- ・教職員の「学び続ける組織」を作る校内研修の在り方

3 地域に生かす

○ 異校種間の交流

- ・児童生徒間の交流、教職員間の交流の検討
- 地域社会との連携
- ・地域社会との「横」の連携の検証、持続的な連携となるための組織改編

D(実践)

教育活動全体をつなごう！

ステップ1 キャリア教育の「断片」を洗い出す

- P(計画)で検討した学習のつながりを結び付けていくために、学校の教育活動の中にあるキャリア教育の「断片」※を見いだします。

※ 学校の教育活動の中で、キャリア教育実践の機会となり得る教育活動

- 学習内容に関すること
- 指導手法に関すること
- 生活や学習の習慣・ルールに関するここと
- これまでしてきた体験的なキャリア教育の取組

無数にある「断片」の中から、キャリア教育として有効なものを洗い出します。



ステップ2 「断片」を整理してつなぐ

- 洗い出した「断片」を整理してつないでいくことで、体系的・系統的なキャリア教育をつくりあげます。

- 「今」「この学校で」「この子どもたちに」という視点から優先順位を付け、「断片」を焦点化する
- 焦点化された「断片」をつなぐ



ステップ3 有効な指導を検討する

- キャリア教育の目標に基づく体系的・系統的な指導を展開するために、児童生徒にとってより有効となる指導を具体的に検討します。

- 単元や題材に設定されたキャリア教育のねらい(身に付けさせたい力)は具体的になっているか
- 他の教科や体験的な活動との関連は図られているか
- 学ぶ意義を伝える機会が設定されているか

学級・学年などの集団を対象とした指導や支援とともに、個別支援・指導の充実についても検討します。



ステップ4 教育活動全体を通して実践する

- 各教科、道徳、総合的な学習の時間、特別活動など、それぞれの教育活動の特質を生かしつつ、関連を図りながら実践します。

- 児童生徒の変容にあわせて、フォローアップや修正を加えて取り組む
- 個別支援・指導の機会を十分に確保する

(例) 宮崎市立学園木花台小学校のキャリア教育年間指導計画

- 1年生生活 「みんなみんなだいすきだよ」 (家族、学校職員に学ぶ)
2年生生活 「町たんけん」 (地域の職業人、地域ボランティアに学ぶ)
3年生総合 「自分たちにできることを地域に学ぼう」
4年生総合 「自分さがし(今の自分と今までの自分、そしてこれからの自分)」
5年生総合 「木花大好き」 !地域の名人に学ぶ、自分みがきプロジェクト

※□ 核となる体験活動 ◉: 人間関係形成・社会形成能力 ●: 自己理解・自己管理能力
□: 課題対応能力 ■: キャリアプランニング能力

6年生総合「夢プロジェクト～未来に輝くための自分さがし～」

月	関連行事等	総合的な学習の時間	各教科・外国語活動	道徳	特別活動
4	始業式 入学式		●家庭「工夫しよう朝の生活」	●自分のよさをのばして困難を乗り越えて	●■最上級生としての自覚 ● 学級の係、当番 ○●■学級目標、個人目標
5	参観日 : ガイダンス	・学習の意義や流れの説明 ・キャリア教育の視点からねらい 夢プロジェクト part1 ～未来に輝くための自分さがし お仕事ウォッチング編～ 1 将来の夢、職業 2 修学旅行お仕事ウォッチング計画		●■働くということ	
6	修学旅行: 3 お仕事ウォッチング	4 「お仕事ウォッチング」報告会 5 親のお仕事ウォッチング計画	●□保健「病気の予防」	○●相手のことを考えて	○●運動会に積極的に参加しよう
7	夏休み : 6 親のお仕事ウォッチング	7 「親のお仕事ウォッチング」報告会		○●最後まで守る	
8		夢プロジェクト part2 ～未来に輝くための自分さがし 白菜栽培・商い体験編～ 1 村田名人の話 2 白菜栽培計画 3 白菜栽培体験 4 白菜販売計画	●理科「発電と電気の利用」	● 球技 ● 続けること	● 学級の係、当番 ○●個人目標
9	運動会	5 バザー : 5 白菜販売体験 6 「白菜栽培・販売体験」報告会	○●社会「わたしたちのくらしと日本国憲法」 ○●生活習慣の大切さ	○●続けること ● 生活習慣の大切さ	● もうすぐ中学生(中学校入学説明会) ● 冬休みの過ごし方
10		夢プロジェクト part3 ～未来に輝くための自分さがし これからの自分編～ 1 「苦労や困難を乗り越えるための力」取材計画 2 「苦労や困難を乗り越えるための力」取材 3 二十歳の自分への手紙 ・自分の夢・目標 ・予想される苦労・困難 ・これからがんばること 4 保護者への感謝状 ・同じじ	■ 国語「自分をみつめ直して」 ■ 外国語「『夢宣言』をしよう」 ■ 家庭「考えようこれからの生活」 ■ 社会「世界の未来と日本の役割」	● くじけずに努力する	● 卒業にあたって
11		参観日 : 感謝状贈呈式			
12					
1					
2					
3	卒業式				

小中一貫合同研修会などによる共通理解（「縦」の連携）

中学校3年間のキャリア教育

C(評価)

児童生徒の変容をとらえよう！

- 評価とは、設定されたP(計画)に基づくD(実践)の成果と課題を検証するものです。

「何を」「いつ」「どのように」

・P(計画)において、評価指標を定めるとともに、評価の実施計画を盛り込んでおくことが必要です。

定性的な評価・定量的な評価を行い、児童生徒の変容をとらえる。

評価を生かす

児童生徒の変容から、教職員の働きかけを間接的に評価します。

- 指導計画の適切性について評価します。
- 取組の実践の方法・運営の適切性を評価します。

キャリア教育に関するQ&A

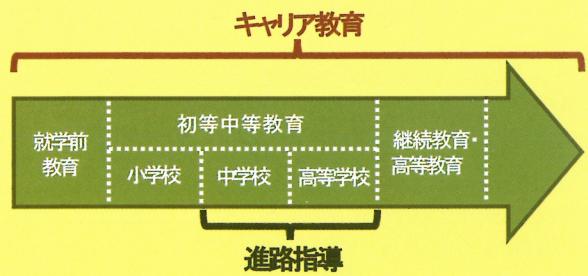


Q1 キャリア教育と進路指導のちがいは何ですか？

A1 キャリア教育のねらいは、進路指導の目指すところとほぼ同じです。キャリア教育と進路指導との間には概念的に大きな差はありません。

ただし、進路指導は、中学校及び高等学校（中等教育学校、特別支援学校中学部及び高等部を含む）における教育活動であるのに対して、キャリア教育は就学前教育に始まり、社会人への移行に際して、課題を抱える若者にも行われるものであります。そのため、広い視点からとらえ、「縦」の連携を図っていくことが大切です。

キャリア教育と進路指導との関係



Q2 学校には、たくさんの「〇〇」教育があります。キャリア教育にまで手が回らないのですが…。

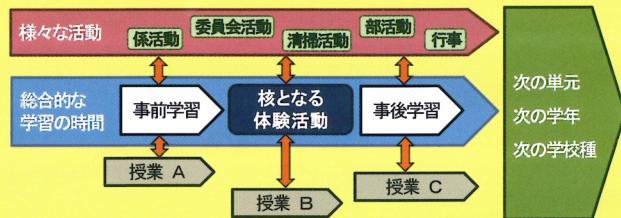
A2 キャリア教育は、それぞれの学校段階で行っている教科・科目等の教育活動全体を通じて取り組むものです。特定の活動のみを実施すればよいということや、新たな活動を単に追加しなければならないということではありません。学校で取り組む「〇〇教育」において育む力の位置付けを、キャリア教育の視点から見直しを行い、教育課程における明確化・体系化を図りながら点検・改善してみましょう。



Q3 キャリア教育と関連のある教科にしづかって取り組むことはできますか？

A3 学校全体の取組となるように検討しましょう。例えば、「核となる体験活動」を中心位置付けた上で、そこに、各教科、道徳、総合的な学習の時間、特別活動などの学びをつなぐことができると、教育活動全体の取組に改善されていきます。そうすることで、横断的・総合的な学習を促進することができるともに、児童生徒に「なぜ学ぶのか」「学んだことをどう生かすのか」といった「学ぶ意義」を伝えることができ、学習意欲の向上にもつながっていきます。

(例) 「核となる体験活動」を総合的な学習の時間に位置付け、「断片」をつなぐ



学校の教育活動を、キャリア教育の視点で捉え直してみましょう！